

【追悼文】

眞野喜洋先生を偲ぶ

日本高気圧環境・潜水医学会 副代表理事
東京医科歯科大学 スポーツ医歯学センター 医学部附属病院高気圧治療部
柳下 和慶

眞野喜洋先生におかれましては、先日2月15日にご逝去されました。

1969年東京医科歯科大学をご卒業後、翌年には本学会の前身である日本高気圧環境医学会の評議員・理事にご就任され、日本の潜水医学・高気圧酸素医学の黎明期を拓き、日本の、そして世界のオピニオンリーダーとして、多大な寄与を頂きました。2005年～2013年の8年間にわたり、本学会代表理事を務められ、本学会と日本の潜水医学・高気圧酸素医学を牽引され、一学会員として感謝の念に尽きません。眞野先生のご逝去におきましては、本学会としての喪失感は極まりないものです。

眞野先生は、医学生として大学在学中より潜水医学の研究活動を開始され、深度100メートル超の環境医学、窒素気泡化に関する基礎実験等を精力的になされました。さらに1976年にはハワイ大学の生理学教室へご留学され、潜水医学の知見と学識を深められています。絶版となりましたが、眞野先生著の成書「潜水医学」(朝倉書店)については、未だ比肩する成書が見当たりません。

眞野先生の大らかで社交的な性格からも、多数の海外医師、研究者との積極的なご交流があり、UHMSやDANでの国際交流には特筆すべきものがありました。国際学会やミーティングでは、いつもcheerfulな眞野先生を囲む国際色豊かな笑顔と笑声に溢れていました。UHMSでのYoung Scientist Awardに対する本学会からのfundを確立され、日本の学会のpresenceを高められ、2007年にはUHMSよりAward of Ocean Engineeringを授与されました。現在のUHMS等国际学会での日本の立ち位置は、眞野先生の遺産と言っても過言ではありません。

東京医科歯科大学では、1966年に高気圧酸素治療装置第1号機が設置され、眞野先生のご尽力により2001年には現在の第3号機となる16名同時収容可能な第二種装置が設置され、あわせて医学部附属病院中央診療部が開設されました。2008年に東京医科歯科大学をご退官後は、同大学名誉教授として大所高所からご指導頂きました。

眞野先生は、現在の静岡県沼津市のご出身で、お父様が網元でいらっしゃったこともあり、お名前の通り幼少の頃より海洋に接し喜び、潜水への深い愛着を持たれていました。先生の潜水・ダイビングへの思いが、日本の潜水医学を世界に先駆け発展に導き、安全潜水のための社会的事業や、減圧症治療のための高気圧酸素医学への情熱となったものと拝察致します。

現在の日本の潜水医学、高気圧医学の学術、臨床、社会活動は、眞野喜洋先生なしでは到底考えることができません。先生のご遺志を引き継ぎ、潜水医学、高気圧医学の学術、臨床、社会活動への尽力が、先生への供養となることと信じます。

眞野先生のご冥福を、心より祈念申し上げます。